

作成日 ; 2015 年 5 月 1 日
改訂日 ; 2022 年 11 月 1 日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 : 漆喰くるむ-外
会社名 : 日本プラスター株式会社
住所 : 栃木県佐野市多田町 188-2
担当部門 : 技術部
電話番号 : 0283-62-6511
整理番号 : NP-P170
使用上の制限 : 建材としての使用を推奨する

2. 危険有害性の要約

【GHS 分類(水酸化カルシウム)】

物理化学的危険性	爆発物	: 分類対象外
	可燃性ガス	: 分類対象外
	エアゾール	: 分類対象外
	酸化性ガス	: 分類対象外
	高压ガス	: 分類対象外
	引火性液体	: 分類対象外
	可燃性固体	: 区分外
	自己反応性化学品	: 分類対象外
	自然発火性液体	: 分類対象外
	自然発火性固体	: 区分外
	自己発熱性化学品	: 区分外
	水反応可燃性化学品	: 区分外
	酸化性液体	: 分類対象外
	酸化性固体	: 分類できない
	有機過酸化物	: 分類対象外
	金属腐食性化学品	: 分類できない
	鈍性化爆発物	: 分類対象外
健康有害性	急性毒性(経口)	: 区分外
	急性毒性(経皮)	: 分類できない
	急性毒性(吸入・ガス)	: 分類対象外
	急性毒性(吸入・蒸気)	: 分類できない
	急性毒性(吸入・粉じん)	: 分類できない
	急性毒性(吸入・ミスト)	: 分類対象外
	皮膚腐食性／刺激性	: 区分 2
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	: 区分 1
	呼吸器感作性	: 分類できない
	皮膚感作性	: 分類できない
	生殖細胞変異原性	: 分類できない
	発がん性	: 分類できない
	生殖毒性	: 分類できない
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 区分 1(呼吸器系)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 区分 2(肺)
環境有害性	誤えん有害性	: 分類できない
	水生環境有害性 短期(急性)	: 分類できない
	水生環境有害性 長期(慢性)	: 分類できない
	オゾン層への有害性	: 分類できない

【GHS ラベル要素(水酸化カルシウム)】

絵表示：



注意喚起語： 危険
 危険有害性情報： 皮膚刺激性
 重篤な眼の損傷
 臓器の障害(呼吸器系)
 長期にわたる、または反復ばく露による肺の障害のおそれ

注意書き

- [安全対策] 取扱い後は手を良く洗うこと。
 保護手袋・保護衣・保護メガネ・保護面を着用すること。
 粉じん・煙・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。
 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- [応急措置] 皮膚に付着した場合、多量の水で洗うこと。
 特別な処置が必要である(「項目 4. 応急措置」を参照すること)。
 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断・手当てを受けること。
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。
 気分が悪いときは、医師の診断・手当てを受けること。
- [保管] 施錠して保管すること。
- [廃棄] 内容物、容器を国・都道府県・又は市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

化学名または一般名：消石灰系塗材

成分	含有量(%)	化学式	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	CAS No.
水酸化カルシウム	30～40	Ca(OH) ₂	(1)-181	1305-62-0
炭酸カルシウム	非公開	CaCO ₃	(1)-122	471-34-1
アクリル樹脂	非公開	-	-	-
水	非公開	H ₂ O	-	7732-18-5
その他	非公開	-	-	-

4. 応急措置

- 吸入した場合： 速やかに空気の新鮮な場所に移し、咳などが治まらなければ医師の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合： 速やかに多量の水及び石鹸で洗い流し、痛み、痒みなど皮膚に異常が生じた場合は医師の診断を受ける。
- 眼に入った場合： 速やかに清浄な水で最低 15 分間洗眼した後、直ちに医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合： 無理に吐かせてはならない。水でよく口の中を洗浄した後、直ちに医師

の診断を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤：	この製品自体は燃焼しない。 周辺火災の種類に応じた消火剤を用いる。 水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤：	棒状放水
特有の危険有害性：	注水によりアルカリ性の溶液が流出することがある。 消火水は汚染を引き起こす恐れがある。
特有の消火方法：	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周辺に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
消火を行う者の保護：	有毒ガス等の接触を避けるため、消火作業の際は風上から行い、 空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置：	漏洩区域は、関係者以外の立ち入りを禁止する。 漏洩エリア内に立ち入る時は、保護具を着用する。 皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。 風上から作業し、粉じんなどを吸入しない。 粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。 密閉された場所に立ち入る時は、事前に換気する。
環境に対する注意事項：	河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。 海上で薬剤を使用する場合は、運輸省令の規定に適合すること。
回収・中和：	漏洩物を掻き集め、密閉できる空容器に回収する。 漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らせてから回収する。 回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。 後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。
封じ込め及び浄化の 方法・機材：	危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策：	事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 床面に残ると滑る危険性があるため、こまめに処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策： 本製品を取り扱う場合は、適切な保護具(保護手袋、保護面、保護メガネなど)を着用する。
換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行う。
- 安全取扱い注意事項： 接触、吸入又は飲み込まない。
全ての安全注意を読み、理解するまでは取り扱わない。
容器の転倒、落下、引きずるなどの取扱いをしてはならない。
本製品を使用する時に、飲食及び喫煙をしない。
- 接触回避： 空気、水、湿気との接触を避ける。
- 衛生対策： 取扱い後はよく手を洗う。

保管

- 安全な保管条件： 直射日光や高温多湿を避ける。
容器を密閉して冷暗所で保管する。
混触危険物質(強酸化剤、酸類)、食料、飼料から離して保管する。
施錠して保管する。
保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。
保管場所は、換気装置を設置する。
- 安全な容器包装材料： ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラス等。

8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度： 設定されていない。
- 許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)：
日本産衛学会(2014 年版) 設定されていない。
ACGIH(2010 年度版) TLV-TWA 5mg/m³(水酸化カルシウム)
- 設備対策： 本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
粉塵、蒸気、ガスなどが発生する場合は、換気装置を設置する。

保護具

- 呼吸器の保護具： 保護マスク(防じんマスク)を着用する。
- 手の保護具： 保護手袋(ニトリル製又は塩化ビニル製)を着用する。
- 眼の保護具： 保護メガネ(普通メガネ型、側板付き普通メガネ型、ゴーグル型)を着用する。
- 皮膚及び身体の保護具： 長袖の作業衣を着用する。
必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
- 衛生対策： 本製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。

保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态：	ペースト状
色：	各色
臭い：	データなし
pH：	11～13
融点・凝固点：	580℃(水酸化カルシウム)
沸点・初留点及び沸騰範囲：	分解
引火点：	不燃性
可燃性：	不燃性
爆発下限界および爆発上限界／可燃限界：	不燃性
蒸気圧：	データなし
密度および／または相対密度：	データなし
溶解度：	水 100ml に対して 0.12g(25℃) (水酸化カルシウム)
n-オクタノール/水分配係数：	データなし
自然発火温度：	不燃性
分解温度：	580℃(水酸化カルシウム)
動粘性率：	データなし
相対ガス密度：	データなし
粒子特性	データなし
その他データ	気硬性(空気に触れると硬化する)

10. 安定性及び反応性

反応性：	大気中の炭酸ガスを吸収し、炭酸カルシウムとなる。 580℃以上で加熱すると、水と酸化カルシウムに分解する。
化学的安定性：	通常の手扱いにおいて安定である。
危険有害反応可能性：	酸類と反応し発熱する。 強酸化剤と混触すると反応することがある。 多くの金属を浸し、水素を発生する。
避けるべき条件：	空気との接触、加熱。低温(5℃以下)及び高温(35℃以上)。
混触危険物質：	強酸化剤、酸類。
危険有害な分解生成物：	酸化カルシウム

11. 有害性情報

急性毒性(経口) :	ラット LD ₅₀ = 7340mg/kg(ACGIH ,2001 ; HSDB,2005)に基づき 区分外とした。(水酸化カルシウム)
急性毒性(経皮) :	データなし
急性毒性(蒸気) :	データなし
急性毒性(粉じん) :	データなし
皮膚腐食性 / 刺激性 :	眼及び気道を含むすべての身体表面ばく露に対し中程度の刺激性 を示すとの記述(ACGIH,7th,2001)及びヒト皮膚に対して、 moderate,severe,corrosive な刺激を示すとの記述(IUCLID,2000 ; HSDB,2005 ; ICSC(J),1997 ; SITTIG,4th,2002 ; HSFS,2005)から、区 分 2 とした。(水酸化カルシウム)
眼に対する重篤な損傷 / 眼刺激性 :	ヒト眼に対して、moderate,severe,corrosive な刺激を示すとの記述 (ACGIH,7th,2001 ; IUCLID,2000 ; HSDB,2005 ; ICSC(J),1997 ; SITTIG,4th,2002 ; HSFS,2005) 及びウサギに対して corrosive な刺激を示すとの記述 (IUCLID,2000)から、区分 1 とした。(水酸化カルシウム)
呼吸器感作性 :	データなし
皮膚感作性 :	データなし
生殖細胞変異原性 :	データなし
発がん性 :	IARC、ACGIH、EPA に記載ないため分類できない。
生殖毒性 :	データなし
生殖毒性-授乳影響 :	データなし
特定標的臓器毒性 (単回ばく露) :	ヒト呼吸器、気道を刺激し肺水腫を引き起こすとの記述 (ACGIH,7th,2001 ; HSDB,2005 ; ICSC(J),1997 ; SITTIG,4th,2002 ; HSFS,2005)から、区分 1 (呼吸器系)とした。(水酸化カルシウム)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露) :	Priority 2 においてヒト肺を冒すことがあるとの記述 (ICSC(J),1997 ; SITTIG,4th,2002)から、区分 2 (肺)とした。(水酸化 カルシウム)
誤えん有害性 :	データなし

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性) :	データ不足のため分類できない。
水生環境有害性 長期(慢性) :	データ不足のため分類できない。
生態毒性 :	データなし
残留性・分解性 :	データなし
生態蓄積性 :	データなし
土壌中の移動性 :	データなし

オゾン性への有害性： モントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物： 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
 都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分業許可)を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付して廃棄物処理を委託する。
 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上、処理を委託する。
 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出することは避ける。
 汚染容器及び包装： 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報： 該当しない
 航空規制情報： 該当しない

国内規制

陸上規制情報： 該当しない
 海上規制情報： 該当しない
 航空規制情報： 該当しない

特別な安全対策 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
 他の危険物や燃えやすい危険物に上積みしない。
 他の危険物のそばに積載しない。

15. 適用法令

労働安全衛生法： 法第 57 条の 2 項 名称等通知物質 水酸化カルシウム
 労働安全衛生法 (粉じん障害防止規制)
 PRTR 法： 非該当
 毒劇法： 非該当
 消防法： 非該当

船舶安全法： 腐食性物質(水酸化カルシウム)
航空法： 腐食性物質(水酸化カルシウム)
廃棄物の処理及び清掃に関する法律
じん肺法

16. その他の情報

本 SDS は、JIS Z 7253 : 2019「GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル,作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」に準じて作成しており、製品の安全な取扱いを確保するための「参考情報」として、現時点で弊社の有する情報を取扱事業者にご提供するものです。

記載内容は、現時点で入手できた資料、情報、データ等に基づいて作成したものであり、新しい知見によって改訂されることがあります。

本 SDS は必ずしも製品の安全性を保障するものではなく、弊社が知見を有さない危険性、有害性を持つ可能性があります。

取扱事業者は、本 SDS を参考として個々の取扱い、用途、用法などの実態に応じた安全対策を実施のうえ、お取扱いください。

参考文献：

化学物質の危険・有害便覧	(中央労働災害防止協会編)
12093の化学商品	(化学工業日報社)
知っておきたい職場の化学物質	(日本化学工業協会)
日本産衛学会 HP	
職場の安全サイト	
GHS 分類結果データベース	
各原材料の SDS	
